

S.G. Report

No.4

京都大学 総長 松本 紘先生講話

日 時：平成26年7月15日（火）熊本県立劇場 演劇ホール

参加者：本校全学年および希望保護者

講演者：京都大学 総長 松本紘先生 『グローバル時代の 育人』

目 的：京都大学総長松本紘氏の深い見識に基づくグローバルリーダー像についての講演を聞くことで、全生徒・全職員が本校SGHプロジェクトの目指す「日本の伝統文化、歴史等に関する深い教養を備え、課題を設定解決していく力、批判的思考力によりイノベーションをもたらす創造力を持った人材」の育成について考える機会を得るとともに、今後のSG活動に対する共通認識・理解を得る。

生徒の感想（抜粋・おおむね原文のまま）

僕は今回のSG講演会を聞き、済々黌に前よりも誇りを持つようになり、また自身が済々黌生であるから、それなりの行動を起こさなければならないと意識するようになりました。「国際的なリーダー」という人材を目指している済々黌に貢献できるようになるためには、より多くのことにチャレンジしなければならないと改めて思いました。

～略～ <<YK>>



大学という“場”それは…

あなたと
未来を創る場所

今回、心に残った話は「大学と言う場は、あなたと未来をつくる場所」という話です。「勉強」から「学問」へと転換することの意味は特に印象的でした。自分で問いを見つけ、自分で答えを探していく大学と言う場がとても魅力的だと感じるのと同時に、自分にもできるのだろうかという不安も少し感じました。 ～中略～

今よりもっと自分自身を高めるために正しいことから逃げず、いろいろな人と出会い「対話」し、最後に話された4つの「ガク」力をつけていきたいと思います。

<<SC>>

最近、テレビのニュースや教科書、インターネットでも必ず目にするグローバル化という言葉は、私の想像していたものと違っていました。～中略～

松本先生のお話を聞きながら、果たして自分は世界に出て行ったときに、自分の知っていることについて聞かれて、詳しく答えられるだろうかと考えたとき、その自信が全然ありませんでした。今まで海外に出て行くことだけ考えて、海外についての情報ばかり詳しくなろうとしていたのです。これではいけないのだと気づかされました。真のグローバル化とは、各国・各文化の人々がそれぞれの個性を生かし、共存していくことなのだろうと思います。私はまず日本の文化、歴史についてよく勉強し、海外の人たちに日本のよさを自慢できるようになりたいです。～略～ 《YR》

学問とは、真理をめぐる人間関係

(深く深く深く考え、対話し、行動する)=志
その経験のあるなしが人格形成に大きく影響

これこそが大学時代に経験すべきこと



「学力」・・・ 知識・知恵
「額力」・・・ 気迫(志)・制御力
 思いやり
「顎力」・・・ 言葉・健康
「楽力」・・・ 人間的魅力

私は今講演会で、自分の知らなかったことを得ることができたと思う、講演の中で、大学とはどういうものなのかお話を聞いたことが、確かに大学と一言に言っても、自分がいずれ行かろう所という認識の他には、ただ漠然とその概念があるだけで考えたことはなかった。

しかし、講演を聴いて、そこに行くのであればすなわち幅広い知識を持ち、偏りのない考えを持っていなければならないのだと改めて感じた。～中略～

講演の内容は私の初めて知ることばかりで、難しく感じられることや驚きもあった。(例えば富士山と石油の話) 普段、よく使う「グローバル」という単語の本当の意味を様々な角度から考える良い機会になったと思う。何よりも講演の最後に聞いた4つの”ガク” “はなるほどそうか、と思った。今講演で学で納得したことを今後の自分に役立てたいと感じた。《AA》